



手刻み同好会

手刻み同好会の活動について



INDEX

はじめに 手刻み同好会について …p.03-06
代表・野池政宏 ご挨拶

活動記録 創立から現在まで …p.07-15

応援メッセージ …p.16-18

活動への参加について …p.19-21

はじめに 手刻み同好会について

なぜ今、手で刻む技術の 継承が必要なのか？

手で刻むと書く「てきざみ」とは、家づくりに使う木材の接合部分を手仕事で加工する大工の技術を指します。新築はもちろんのこと、とりわけ、住宅リフォームにおいて、古い部材と新しい部材を接合する際などに、材木や家の癖に合わせた手加工が必要となり、手刻みの知識と技術が必要となります。

かつて「山をみて家を建てる」と言われたように、大工の役割は、古くから継承されてきた職人の知恵と現代を生きる感覚に基づいて、自然をよみ、木を目利きし、加工することで、四季を通した理想の暮らしを実現することにあります。

地域の大工が、人々や環境に合わせて家を建て、暮らしを診ていく。サステナビリティやトレーサビリティが求められる昨今ですが、実は遥か昔から、日本人は、ごく自然に、このような文化、ものづくりの精神を継承してきました。近年、日本の住宅市場において、ストック住宅（既存物件・中古住宅）はすでに総世帯数を超え、空き家問題が課題となっています。

また、環境への配慮やサステナビリティを志向する若い生活者も増えてゆく中で、リフォームの需要は益々高まっていくことが考えられます。パッシブデザイン、耐震など様々な観点から、手刻み技術の時代に合わせた継承と発展は、住宅業界にとって重要事項だと考えられます。

手刻み同好会とは

手刻み同好会は、人と家、地域と大工文化、暮らしと自然の関係を今一度見直し、これからの時代にこそ必要とされるこの技術を発展的に継承していくことをテーマに、全国の有志の工務店、学者、建築関係者で結成されました。

各参加者が自らの地域、生業にもちかえることができるような技術と知恵を交換し、若手にもひらかれた学びと実践の場づくりを行うことで、日本全体の大工技術、住宅建築の水準をあげることに貢献したいと考えています。

手刻み同好会の活動趣旨

この同好会を羽根さんと立ち上げたのは2018年。そのときに考えた活動趣旨は次のようなものである。

- ますます深刻になる大工不足への対応策を一緒に考える。
- それは日本全体を視野に入れるようなものではなく、少なくともメンバーがそれに対応できるようにすることを目指す。ここでは、とくに手刻み大工にはこだわらない
- 墨付け、手刻みといった日本の伝統的な大工技術の発展的な継承をどう図っていくべきかを一緒に考える。
- これも日本全体を視野に入れるようなものではなく、まずはメンバーがそうした技術を少しでも向上させ、1棟あたりの手刻みでつくる部分を少しでも増やし、1棟でもよいから手刻みの家を実際に建てながら、手刻みできる大工を目指したい若者のリクルート法や育成法を見い出していくことを目指す。
- そこで可能であれば、たとえばメンバー全体で手刻み大工の教育や共有を行うようなことも視野に入れる。
- また、手刻みでつくる家の意義や魅力をメンバーで整理し、それをメンバーのお客さんが見るようなものとして（たとえばホームページやパンフレット）作り上げる。

今後どのようにこの同好会が進んでいくかはわからないが、ここで書いたような動きをすることで「ある種の成功例」を生み出し、それが地域に、そして日本全体に自然に広がっていくというイメージを持っている。大工不足の対応も手刻み技術の継承も、どちらも極めてハードルの高いテーマである。だからこそ、メンバーがひとつひとつ着実に「自分のもの」にし、そこから少しずつ広げていくというアプローチしかないと思っている。



野池政宏

1960年生まれ 岡山大学理学部物理学科卒

住まいと環境社 代表 株式会社暮らしエネルギー研究所 代表取締役 温熱・省エネ・パッシブデザインに関する講演・講義、工務店・メーカーへのコンサルティング、執筆活動や各種媒体への情報提供を行う。

【主な著書】 エコエネルギーで暮らす家（自費出版）、じっくり派のための家づくり講座1 断熱・省エネ編（エクスナレッジ）、じっくり派のための家づくり講座2 自然住宅編（エクスナレッジ）、増補改訂版省エネ・エコ住宅設計究極マニュアル（エクスナレッジ）、本当にすごいエコ住宅をつくる方法（エクスナレッジ）、パッシブデザイン講義改訂版（Passive Design Technical Forum）、小さなエネルギーで豊かに暮らせる住まいをつくる（学芸出版社）

活動記録

創立から現在まで

勉強会・見学会の実施

手刻み同好会では、有識者を招いての勉強会、講習会、手刻みの現場の見学会等を実施しています。

手刻み技術やパッシブデザインについての見識を深めるとともに、オンライン、オフライン両方を活用しながら、全国の工務店同士が交流し、互いに情報交換ができるような場づくりを目指しています。



手刻み技術普及のための広報活動

一般の方まで含めて広く、手刻みの伝統や現在を知っていただくこと、そして、これからの建築を担っていく若い世代の建築関係者や大工に手刻みへの入り口をつくりたいという思いから、各種SNS等を通じた情報発信を行なっています。

同好会のイベントや情報を発信するだけではなく、現役大工が手刻みの魅力を語る「手刻みの大工さんシリーズ」、手刻みの活動を応援して下さる有識者の方からの寄稿「寄稿&インタビュー/手刻みの未来を考える」など、手刻み技術全体に関わる情報発信を行なっています。

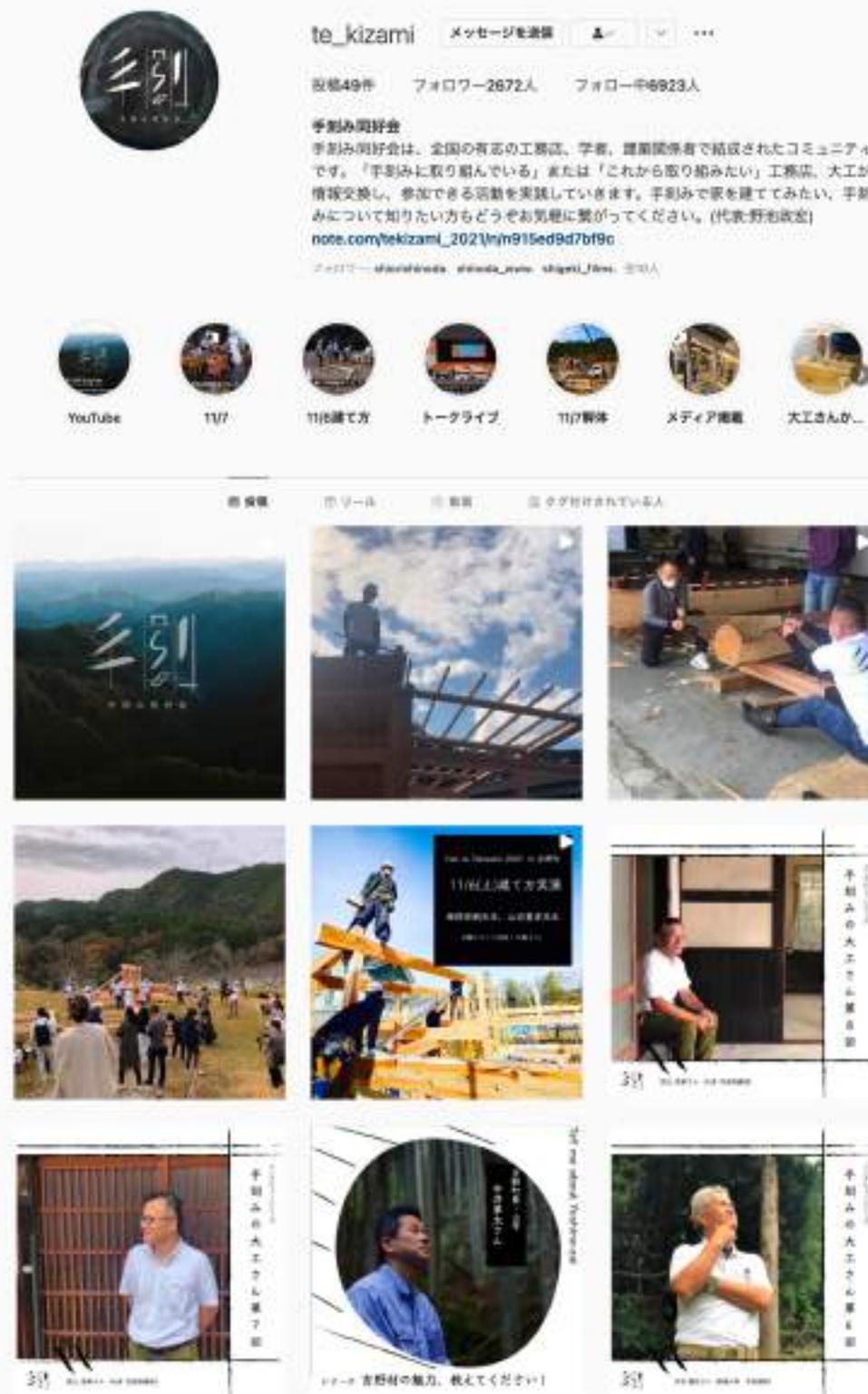
note



Instagram



Facebook



HUT to Tekizami 2021 in吉野

吉野製材工業協同組合の主催、手刻み同好会の企画・運営にて、日本有数の材木産地であり、豊かな自然に囲まれた奈良県吉野町で、手刻み技術と吉野材をPRするための2日間のイベントを開催しました。

Hutとは、「必要最小限の小さな小屋」のこと。小さな小屋にパッシブデザインの設計思想・大工の優れた手加工の技術、自然の素材などの粋を詰め込んで、日本の伝統建築の良さや人の手で刻むことの意味を発信したいという思いから、名付けました。

本イベントでは、野外での建て方実演の他、主催の吉野製材工業協同組合による吉野材ツアー、墨付けやカンナ削りなどの大工の技術を間近で見て、体験していただけるコーナー、有識者をお呼びしてこれからの手刻み建築について考えるトークライブを開催し、連日たくさんの方にお越しいただきました。

【概要】

- 日時：2021年11月6日（土）、11月7日（日）
- メイン会場・総合受付：吉野製材工業協同組合敷地内（〒639-3114 奈良県吉野郡吉野町丹治11番地）
- クレジット

「手刻み加工実演と吉野材展示・商談会」

主催：吉野製材工業協同組合

共催：手刻み同好会

後援：吉野町、奈良の木ブランド課



イベントについては、プレスリリースか、各SNSでのイベントアーカイブをご覧ください。



HUT to Tekizami 2021 in吉野の様子



主な活動

- ・木構造実動実験(解説：山辺豊彦氏)
- ・軸組模型製作ワークショップ(解説：山辺豊彦氏)
- ・木構造・温熱環境・意匠設計・木質材料等の勉強会
- ・正会員への訪問ツアー(事務所、建物)
- ・建物見学ツアー
- ・各地での建て方ライブイベント企画、参加 等

手刻み同好会運営メンバー

代表：野池 政宏「住まいと環境社」(大阪府)
副代表：羽根 信一「羽根建築工房」(大阪府)
広報：篠田 三起子「Buku 暮らしの中のデザイン室」(奈良県)
事務局：中嶋 史子 羽根建築工房内「ヌ・ザヴォン」(大阪府)

顧問：山辺豊彦(山辺構造設計事務所)
顧問：堀部安嗣(堀部安嗣建築設計事務所)



-手刻みの現状と可能性

時間とコストの問題は大きいですね。手刻みというのは本来、大工さんたちに勉強してもらったり、あるいは実験のデータも見てもらえれば、現場での実践と結びつくわけです。「耐力がどれだけ出るか」というのとリンクしていく。「数値上これは丈夫だ」「これはちょっと軽微なところに使おう」とか。継ぎ手、柱と梁の仕口、それぞれの形に応じて強度が違うので、勉強した大工さんであれば、適材適所で仕口を作っていく。大工さんがやる手刻みの意味は、それぞれの強度に応じて、バリエーションを生み出していけるということです。

-手刻みのこれから

手刻み技術を継承していくためには、大工さんたちをお願いするだけではなくて、設計者や建築を設計する方が学んでいただくことも重要ですね。非常にそこは連携プレーみたいなもの。日本にはやっぱり、世界に誇れる大工技術ってのあるんですよ。これは世界的な事実ですからね、ぜひ、やってもらいたい。せっかく宝物なんですから地域ぐるみでそういうものを活かせるような、「顔の見える関係」で、街づくりであったり学校作りであったり、そういうところに活かしてもらおうといいな。

山辺豊彦



1946年石川県生まれ。法政大学工学部建設工学科卒業。青木繁研究室を経て、78年山辺構造設計事務所設立。これまであまり研究されてこなかった在来軸組構法住宅の設計手法について独自の実大実験などをもとに研究、その方法論を分かりやすく解説する技術には定評がある。'98年より全国の大工、設計者を中心とした勉強会「大工塾」を主宰。設計者、施工者らに木構造の正しい知識を広めようと精力的に活動している。（一社）日本建築構造技術者協会・関東甲信越支部東京サテライト顧問。（一社）住宅医協会代表理事。主な作品に、「つくば市立東小学校」（1995年）、「棚倉町立社川小学校」（1997年、BCS賞）、「正田醤油本社屋」（2004年、日本建築士会連合会賞優秀賞、BELCA賞）、愛農学園農業高等学校（2015年耐震改修優秀建築賞）、和木町立三加和小中学校（2016年木材活用コンクール最優秀賞、農林水産大臣賞）など。

-手刻みの現状と可能性

日本が建築の世界においてやらなければいけないことはもう建築を新しく作るというよりは修復したり修繕したりあるいは、既存のものを利用していくってということだと思います。高い確率で人口も減っていくし、その受け皿を増やしていく必要はほぼ無い。そうすると、改築や増築、直していく技術が大事だと思うんです。手刻みができる大工さんがいなくなるとすでにあるものを活かすことが不可能になってく。これは本当に大きなことです。もしに手刻みの文化がここで技術が途絶えてしまうと、すでにある物を修繕して長く使っていくってということすらも諦めるということになって、それこそ「スクラップアンドビルド」をどんどん加速させていくことに繋がってしまいますからね。

-手刻みのこれから

いろんな分野、いろんな業界で技術継承の問題はあります。今、一つ一つ残していこうっていう動きが現れてきている。こういう世界は「首の皮一枚」でなんとか持ち堪えている状態だと思うんです。でも、その首の皮一枚を十枚百枚にしようとするわけじゃなくて、首の皮一枚を強化していくみんなが橋渡しをしていって、繋がっていくような運動になりつつあって。そういう流れを見ても、建築大工の世界での手刻みを残していくってことは非常に濃い有意義。ものづくりの世界、全体を考えた時には、なくてはならないことだと思っています。他分野の人との連携、世界の広がりみたいなものが、手刻み同好会の活動にもあるといいですね。

堀部安嗣



1967年横浜市生まれ。90年筑波大芸術専門学群環境デザインコース卒業。91～94年、益子アトリエにて益子義弘氏に師事した後、堀部安嗣建築設計事務所を設立。2007年から京都芸術大大学院教授。2016年日本建築学会賞（作品）を「竹林寺納骨堂」で受賞。代表作に「南の家」「ある町医者 の 記念館」「KEYAKI GARDEN」「阿佐ヶ谷の書庫」「鎌倉山集会所」の他、客船「ガソツウ」など。2020年毎日デザイン賞受賞。

中村好文氏応援手ぬぐい

本手ぬぐいは、大工の伝統技術「手刻み」を守る手刻み同好会の活動に寄せて、建築家・中村好文氏が応援の想いを込めてデザインしてくださったものです。日本のものづくりの未来への希望を込めて、奈良の注染工房による手仕事で仕上げていただきました。活動へのご支援の返礼品として、協賛をいただいた皆さまにお配りいたしました。



応援メッセージ

良いもの、良い暮らし。実直に、不器用に、本当に根付いていく文化を継承する くるみの木代表 石村由起子

日本の職人さんの世界には、技術の継承だけでなく、その世界での生き方を学んでいくというものづくりのサイクルがあるんです。お世話になった方を大事にするとか、そういう全てのことを学んでるんだなと思うと、私は何を渡せるかな？と思いました。

私の場合、暮らしそのものが仕事でもあり、仕事暮らしでもあるので、公私を切り離せない部分も多くて難しいのですが…。暮らしって、一過性のブームや綺麗に飾ることではありません。暮らしは人生だと思っています。心豊かな人生を手に入れるためには、仕事も一生懸命やらないといけない。ずるいことは、しちゃいけないんです。「まっとうに」って、実は不器用なことなのかもしれません。真似してちゃちゃと済ませるのではなくて、地味なことを毎日毎日、コツコツ積み上げて、意義のある人生を自分で見つけていく行為なんですから。ある意味、手刻みともいえるかもしれませんね。



石村 由紀子

香川県高松市生まれ。1984年、奈良でカフェ「くるみの木」を開業、全国から来客を得る人気店へと成長させる。現在は奈良を拠点に、各地で商品の企画や町づくりにも関わるなど幅広く活躍、多くのファンを集める。『私は夢中で夢をみた』（文藝春秋）をはじめ著書多数。

記事の全文は、手刻み同好会のnote
よりご覧いただけます。



『手仕事と暮らしの繋がり』 皆川明

産業革命以降、手仕事がこの世界から減り始め、機械化、合理化によって有機的な物づくりが社会の景色から失われている。住まいという人の暮らしの中心となる空間においてもそれは例外ではないようだ。

私達が消費という言葉を用いて物を購入し始めたのはいつ頃からだろう。いつしか私達自身も消費者と名乗り、日本においては1970年頃からの高度経済成長の物づくり方程式は、大量生産、大量消費のサイクルとなっていた。そのサイクルは生産量が増え、時間サイクルはより短くなり、そこに費やされるコストも安価な物へとシフトしていくこととなる。当然、作る現場は合理化と簡略化が進み、手仕事による技術を活かす場は減っていき、その技術の伝承も難しくなっていた。

本来のサスティナブルやSDG'Sという環境への意識や目標は、単に持続可能性を謳っているのではなく、本質的な意味として人間の営みと幸福感が繋がらなければならないのだと思う。人は物を所有することでその機能や物の美しさから幸福感を得ているが、その感情は物への愛着や敬意とも言えるだろう。その感情を人が感じるためには、単なる機能だけではなく物に含まれる作り手の“想い”も大切な役割を果たすのだと私は思う。…



皆川 明

ミナベルホネン デザイナー 1995年に「minä perhonen」の前身である「minä」を設立。ハンドドローイングを主とする手作業の図案によるテキスタイルデザインを中心に、衣服をはじめ、家具や器、店舗や宿の空間ディレクションなど、日常に寄り添うデザイン活動を行っている。デンマークKvadrat、スウェーデンKLIPPANなどのテキスタイルブランド、イタリアの陶磁器ブランドGINORI 1735へのデザイン提供、新聞・雑誌の挿画なども手掛ける。

記事の全文は、手刻み同好会のnote
よりご覧いただけます。



活動への参加について



同志、求む

手刻み同好会は、これからも、手刻みの技術を幅広い方々に知っていただき、手刻み技術の「発展的継承」に向けての取り組みを続けていきます。活動に興味を持っていただいた方、関わりを持ってみたいと思われた方は、どうぞご連絡ください。



手刻み同好会への入会・参加方法について

正会員

年会費:35,000円

正会員は目指すところに向かって、つくり手として主体的に活動いただくメンバーです。個人事業主、法人問わず、工務店、設計事務所などの方にご入会いただけます。

- 工務店、設計事務所は正会員のみとさせていただきます。
- お互いに意味のある活動が進められることを確認したいと考え、定例会にオブザーバー参加していただき意見交換してからのご入会になります。
- 正会員からご紹介をされた方については上記の限りではありません。

準会員

年会費(協力金):5,000円

準会員は正会員以外の立場として、自由な形で当団体の活動に関わっていただくメンバーです。一般、OB様、学生など、正会員以外の業種は問わずご入会いただけます。

- メンバーの工務店訪問、定例会議にはオブザーバーとして参加していただけます。
- セミナー、イベントについては割引価格で参加していただけます。

協賛企業/団体

1口:50,000円(年)

- 当会員にメールなどを通じて宣伝したい内容を案内することができます。
- 有料で開催するセミナー・イベントについて割引価格で参加していただけます。
- メンバーの工務店訪問、定例会議にはオブザーバーとして参加していただけます。

会員以外の方：随時SNSなどで参加いただけるイベントを案内しております。案内メールをご希望の方は事務局までご連絡ください。

<お問い合わせ>

〒535-0013 大阪府大阪市旭区森小路1丁目2-15 (有)羽根建築工房内ヌザヴォン 手刻み同好会事務局 中嶋宛

fax: 06-6958-6278 mail: tekizamidoukoukai@gmail.com





手刻み同好会 代表
野池 政宏
Noike Masahiro



山辺棟造設計事務所 代表
山辺 豊彦
Yamabe Toyohiko



堀部安嗣建築設計事務所 建築家
堀部 安嗣
Horibe Yasushi

手刻み同好会の動画ができました

手刻み同好会の活動をご紹介します動画がYoutubeでご覧いただけます。代表野池の手刻み同好会の設立への想い、建築家・山辺豊彦先生、堀部安嗣先生の応援メッセージ、第1回Hut to Tekizamiの様子なども収録。ぜひご覧ください。



各種SNS・情報発信について

Noteでは、有識者からの寄稿エッセイや手刻みの大工の現場レポートなどの記事コンテンツを配信、InstagramやFacebookでは、手刻みのイベントの様子や大工のインタビューを掲載するなど、各種情報を発信しています。最新の情報をお届けしますので、ぜひフォローをお願いいたします。

手刻み同好会



note



Instagram



Facebook



